倉内史郎理事長の下で

田中　萬年（元職業能力開発総合大学校）

私が本学会にお世話になったのは1970年だったと思う。平成になって、宗像元介理事（初代職業訓練研究センター長）から、事務局を手伝ってやれないか、と言われた。どうやら困惑しておられるようであり、学会の運営など全く知らない私にできる事なら、と思い細谷俊夫先生も出席されていた理事会に出始めた。事務局の仕事を立教大の女性事務員さんに教えて貰いながら帳簿の整理や紀要（B５版）の制作作業、理事会の開催等を、倉内理事長の１期後半から受け継いだ。また、1992（平成４）年の倉内史郎先生が理事長に再選された選挙作業では極めて細かな指示を受けたことが思い出される。

1992（平成４）年に編集委員と理事に任命され、正式に紀要作成を中心的に携わった。1995（平成５）年に事務局長に任命されると紀要の制作作業は全面的に担当した。当時、学会誌は紀要と会報を約半年おきに発行していたが、制作・発行作業には大差なく、学会の発展を願い紀要と会報から「研究」誌に変更し年２回発行する案を理事会に提案した。再編案は理事会で了解を頂き、紀要の最終23号の編集後記に委員長の齋藤健次郎先生が「大福帳からコンピューターへ…研究紀要は変貌する。」と記された。

紀要最終号の沼口博先生の論文を新版で再編集して見本版として会報と伴に発送した。

編集規程は幾つかの学会の規程を参考に案を作り、編集作業が容易になるよう原稿もデータ提出とし、レイアウトで提出するように規定を作成し理事会・総会でご承認戴いた。

編集委員長の齋藤健次郎先生は新版（1994年：第24巻第１号）の編集後記の冒頭に、「日本産業教育学会も政界と同じように、改善改革のさ中にある。」と記された。

新版になった当初の１号には、大会発表要旨を再編した概要を掲載して、学会外にも大会内容が知られるように編集した。このことに大変喜んで下さった会員からお礼のお便りがあり、嬉しいことであった。

1999年度版（第29巻）から谷口雄治先生によりデザインを一新し、表紙がカラー版になった。

事務作業にもパソコンが使えるようになり、必要に応じて利用法を教えて貰い、会員台帳等の再編を進めた。手紙と電話の連絡から、パソコンからFAXを送るという方法で手間を省かせて頂いた。

1996年の第37回大会は沖縄職業訓練短期大学校の村上有慶会員が引き受けて下さり、思い出に残る大会となった。次の写真は倉内先生に誘われてシンポジウム会場で撮った一枚である。

右から倉内史郎元理事長、村上有慶委員長と筆者

次の38回大会は中央工学校、第40回大会は錦糸町にあったが今は解体された生涯職業能力開発センター（アビリティガーデン）で開催され、それぞれ特徴ある大会となった。

私が事務局長時代は倉内史郎先生が理事長であったが、倉内先生は学会運営には会員のことを先ず緻密に考えて判断され、その立場でご指示頂いた。そのため、任期中に大きな問題は生ぜず、素人の私でも事務局長として大過なく終えることができた。会員の皆様のご支援もあり、短い期間だったが学会のお世話ができたことを嬉しく思っています。